

伝統構法と在来工法の違い 比較資料

項目		在来工法	伝統構法
地震時の比較	耐力要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筋交い、または構造用合板（コンパネ）等を張った耐力壁 ○ ホールダウン金物をはじめとする、構造金物 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柱・梁・差鴨居等に加工してある長ホゾ・栓 ○ 貫（ぬき） ○ 竹小舞（たけこまい）と土壁
	地震時の変形量 建物の揺れ	変形量は小さい。 地震時の揺れも、伝統構法に比べると小さい。 （＝変形しにくい）	変形量は大きい。 地震時の揺れも、在来工法に比べると大きい。 （＝変形しやすい）
	粘り強さ	小さい （初期強度や建物の剛性は高く、硬い建物だが、粘り強さには欠ける。）	大きい （初期強度や建物の剛性は小さく、柔らかい建物だが、その分粘り強く、大きな地震エネルギーを受けても倒壊しにくい。）
	地震後のダメージ	大 （震度6強より強い地震エネルギーを受けてしまうと、次の衝撃には耐え切れない。倒壊の危険性が高い）	小 （仕口・貫・土壁などが少しずつ壊れることで、エネルギーを吸収する。木部ではメリコミが生じて小さなダメージを受けるが、大地震の際の倒壊の危険性は小さい）
建設コストの比較		平均的な坪単価：65万円～	平均的な坪単価：90万円～
竣工までの工期の比較		約1年 （設計期間6ヶ月 + 見積・施工期間6ヶ月）	約1年半～ （設計期間：6～8ヶ月 + 見積・施工期間：約1年）



在来工法 事例1



伝統構法 事例 (竹小舞下地)



伝統構法 事例 (荒壁塗りつけ)



在来工法 事例2



伝統構法 事例 (一般民家)

在来工法 (左) と伝統構法 (右) の壁下地・耐力壁要素の違い